

(3) 年 教科【 社会 】

使用教科書	東京書籍 新編 新しい社会 歴史 同 公民		
学習の目標 ・ねらい	・近現代（明治以降）の世界について、日本を中心にその歴史的特徴と展開について、歴史用語と資料の活用をふまえ、理解し、説明することができる。 ・地理、歴史で学んだ知識をもとに、私たちが暮らしている社会のしくみやルールについて理解し、私たちの暮らしがどのようにして維持されているか、また、これからどのような社会を築いていくべきかについて考えることができる。		
年間の 授業内容	前期	4月 第1次世界大戦と日本 5月 世界恐慌と日本の中国侵略 第2次世界大戦と日本 戦後日本の発展と国際社会 6月 新たな時代の日本と世界 （歴史的分野終了） 【ここまで前期中間範囲】 （公民的分野）【第1章】 現代社会と私たちの生活 【第2章】 1節 人権と日本国憲法 7月 第2節 人権と共生社会 第3節 これからの人権保障 【ここまで前期期末範囲】 9月 【第3章】 第1節 現代の民主政治	
	後期	10月 第2節 国の政治の仕組み 【ここまで後期中間範囲】 11月 第3節 地方自治と私たち 【第4章】 第1節 消費生活と経済 第2節 生産と労働 12月 第3節 価格の働きと金融 第4節 政府の役割と国民の福祉 1月 第5節 これからの経済と社会 【第5章】 第1節 国際社会のしくみ 【ここまで後期期末範囲】 2月 第2節 さまざまな国際問題 第3節 これからの地球社会と日本 ※試験範囲はあくまで予定です。	
特色ある 学習など	・学習した知識をもとに、資料やICTを活用して少人数で取り組む問題解決学習を行う。 ・単元のまとめとして、学年で情報共有ページを作成する。 ・小テストを行い知識の定着を確認する。		
評価の観点	・近現代史（明治～終戦ごろ）や現代社会の出来事についての基本的なあらましについて理解している。【知識・技能】 ・近現代史（明治～終戦ごろ）の日本の社会の様子や現代社会のしくみを学習した後に、これからの社会の在り方や取り組むべき課題を見出すことができる。【思考力・判断力・表現力】 ・学習内容をもとに、自分の考えを簡潔にまとめ（ノートやchromebook）、わかりやすく伝わるよう工夫している。【主体的に学習に取り組む態度】		
評価の方法	・学習への参加状況、ノート作成による取り組み状況、単元まとめ活動、小テスト、基礎学習のテストの取り組み、定期テスト、人権作文によって総合的に評価する。		
注意事項	・ワークシートや配布資料が多いので、ノートに貼って管理をていねいに行う。 ・B5のプリントが貼れるA4のノートを使用する。 ・テスト前の課題や単元のまとめの活動などの課題を提出期限までに取り組む。		